

国際協力の現場を語る

JICA (ジャイカ: 国際協力機構) は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア (40歳~69歳) を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時: 毎月第3水曜日 15時30分~17時
 会 場: JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど
 会 費: 無料 (どなたでも自由に参加出来ます)
 主 催: NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後 援: JICA 横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい)

問合せ先:

横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当: 白井道雄 (045-891-5490)

URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



赴任国 (講師名)		「タイトル」 講演概要
第79回 3月21日 (水) ボリビア (森 妙子)		「ボリビアの青い空の下で」 ~知られざる日系人の軌跡~ 移住というとブラジル・アルゼンチンなどと言われる。どっこいボリビアでも日系人が頑張っている。歴史は古く110周年を祝った。戦後も次々と入植。艱難辛苦を乗り越えて、今ではボリビアの農業を支え、周囲のよき手本となっている。そして今、ボリビアはリチウムの埋蔵量世界一と注目され、今後日本との関係も強化されていくだろう。そんなボリビアの今も伝えたい。
第80回 4月18日 (水) パプアニューギニア (野崎 徹)		「ラバウル医薬品倉庫で在庫管理の指導」 “ラバウル小唄” で日本人に馴染み深いラバウルは、幾多の戦争と火山の大爆発により破壊と再生を繰り返してきた町でもあった。赴任になった私の最初の仕事は、医薬品倉庫の前や中に積もった火山灰やドロを避け、環境を整えることから始まった。私の2年間の活動とラバウルの町の今を紹介したいと思います。写真はラバウル2011年ラバウルの町の全景です。
第81回 5月16日 (水) シリア (桑田和幸)		「シリアでの品質改善活動を通じて」 シリアの第2都市アレッポでの工業会議所をベースに“品質”を広義に捉え組織的な改善活動を心がけた。オープンでフェアな取組み、全員参加の考え更に成果を共有する等はこれからの課題と言える。シリア発展の将来を担う若者への期待は大きいものがある。日本への強い親近感の中、遠隔ながら今後も間接的なサポートを SV 経験者の協力を得ながら継続してゆきたい。
第82回 6月20日 (水) アルゼンチン (後藤俊吉)		「アルゼンチンでのボランティア活動と自然・文化」 アルゼンチン国は2002年返済不履行(デフォルトを宣言)に見舞われました。その後、現在までインフレ基調で推移しています。人口4000万人に対し、牛の頭数は人口の約3倍と農畜産国ですが、少量の石油、天然ガスを産出しています。このガス等を利用しバイアブランカ市の石油化学コンビナートでは、ポリエチレン・塩化ビニル・尿素等を生産しています。この国の体験等をお話します。
第83回 7月18日 (水) ブラジル (金子記志子)		「日系社会の絆で支える日本語学校」 ブラジルではヨーロッパ系の移民はまず教会を、日本人は学校を建て日本語を教えてきたとか。創立時から地域の人々の熱意と日本への思いで、日本語や日本文化の継承を担ってきた日本語学校です。今でも運営資金稼ぎから行事の裏方まで、地区の日系人の人たちの絆や、ボランティア活動で支えられているのです。